

シンリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2023. 10. 27

No. 20



ピラウトウルナイ区域の文化的景観 —文化的景観解説サインの紹介6—

ピラウトウルナイ区域は、本町から見た沙流川左岸側の山林地帯（小平、川向）になります。地域の方々にとって馴染みのある景観だと思います。本区域は、パンケピラウトウルナイ、ペンケピラウトウルナイ、ユーラップなどの沢を含む町有林です。

これらの山林は近代以降、木材の生産と牧畜を同時に行うような利用がされてきました。木材や炭材のために利用しながら、農耕馬の林間放牧がされていたようです。現在はコナラを主としながらハルニレやエゾイタヤなどがある広葉樹林が広がっています。また、植栽によるカラマツなどの針葉樹林もみられます。一口に森や林と言っても、地域の土地利用の姿をそこに見ることができます。沢に目をむけると、パンケピラウトウルナイは、かつて門別川流域を行き来する峠道として使われていました。当時の人々の行き来をうかがい知ることができる興味深い区域です。

（山本 雄）



442 617 279 02（駐車場）



南側より空撮したピラウトウルナイ区域（写真右側の山林）

イギリスのジャパンハウス派遣事業③

ジャパンハウスロンドン（以下、JHL）での展覧会について、正式に広報が開始されました。タイトルは「Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River」。会期は 2023 年 11 月 16 日～ 2024 年 4 月 21 日です。タイトルに contemporary とあるとおり、現代に焦点をあてたものになっています。

以下は、プレスリリースされた際のサイモン・ライト氏（JHL の企画局長）の言葉です。

「本展は、平取町の人々との協働企画により、現代におけるアイヌの文化継承について、英国で初めて紹介する貴重な機会となります。アイヌをテーマにした展示において、これまで多くの美術館が過去に焦点を当て、歴史的な民俗資料などで展示が構成される傾向にありましたが、ジャパン・ハウス ロンドンで開催するこの展覧会は、これまでとは一線を画した展示を目指し、本展のために特別に制作された独自の素材を通して、平取地域（主に二風谷）におけるアイヌ文化が今日どのように息づいているかを、肌で感じられるような形で紹介します」

今後も JHL のウェブサイト (<http://www.japanhouselondon.uk>) で情報が発信されるでしょう。英語サイトですが、興味のある方は、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。平取町の見慣れた風景も映し出されると思います。

準備のほうも着々と進んでいます。9 月半ばに、二風谷アイヌ文化博物館や地域の方々から、JHL へ貸し出す資料の輸送作業を実施しました。総数は 100 点を超えます！資料の状態をチェックし、専門業者が丁寧に梱包を行いました。資料や展示が海外の方々の目にどのように映るのか楽しみです。（山本 雄）



貸し出しのため、博物館に集められた民具や工芸品・・・の一部

平取町とイギリスの関わり③

スコットランド出身の医師・人類学者のニール・ゴードン・マンローが、初めて平取を訪れたのは、明治 40（1907）年のことでした。その後、昭和 7（1932）年に移住し、翌年木造の住宅兼コンクリート造りの書斎・診療所を二風谷に建てました。



ニール・ゴードン・マンロー 自宅の書斎にて
写真蔵 出村文理氏

マンローは、アイヌ民具の収集や精神文化の研究などでも貴重な記録を残しましたが、二風谷で無料診療を続けたことから、地域の人々にとっては「マンロー先生」というお医者さんとして記憶されてきました。今年度の博物館の特別展は「二風谷に生きたマンロー先生」と題して、マンローの功績や地域との関わりなどを紹介します。会期は 10 月 3 日～ 12 月 3 日です。

「二風谷の銘石とアオトラ石」

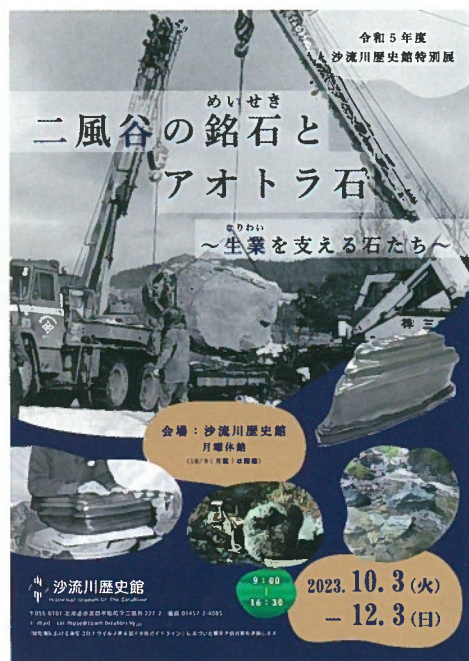
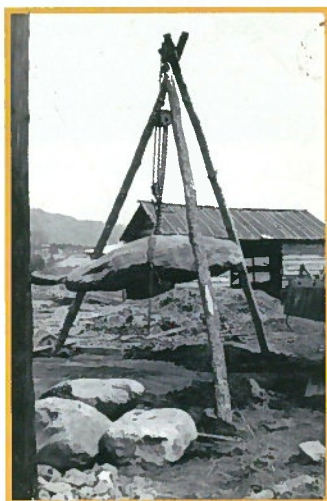
～生業を支える石たち～

開催中です!

沙流川歴史館では、ただいま特別展「二風谷の銘石とアオトラ石～生業を支える石たち～」を開催しております。昭和 30 年代後半に二風谷では民芸品や鑑賞石ブームが起きました。二風谷の人々の生業を支えた銘石の歴史と、主要石材のアオトラ石に焦点をあてています。

町内にあります多数の石碑等の写真やお借りしました様々な鑑賞石も展示しております。12月3日まで開催しておりますので、ぜひご来館ください。

(久米智江)



台湾先住民族の文化と環境知識

終了しました

特別企画展について

国立台湾史前文化博物館主催の特別企画・海外巡回展を、9月2日(土)～18日(月)の期間で当館を利用し開催されました。開催初日に、レクチャーホールでオープニングセレモニーが行われ、2日目の開催記念公開フォーラム「先住民族の環境知識～未来に向けた再構築・活性化の多様な試み～」には、130名の方が参加されました。講師には台湾国立台湾史前文化博物館副研究員張至善^{ちょうしぜん}氏をはじめ、台湾と、平取町の文化や環境についての取組事例等の紹介がされました。

(黒川佳美)



公開フォーラムの様子



特別企画・海外巡回展の様子



カラムシで製作した織り布やバッグ

沙流川流域の野鳥たち No.8

ツル目ツル科

観察難易度：★★☆☆

タンチョウ

学名：*Grus japonensis* 漢字名：丹頂たんちょう

英語名：Red-crowned Crane

アイヌ語名：サロレンカムイ（湿原の神）



※2022年6月頃撮影：平取町内



※2022年6月頃撮影：平取町内



※2023年9月頃撮影：平取町内

大きさ 全長 145 cm よくかいちょう 翼開長 240 ～ 250 cm

鳴き声 “クルルー”、“クルルー”と鳴く。鳴き交わし時は、雄が“クルー”と鳴き、続けて雌が“カッ、カッ”と鳴く。

特徴 日本最大で、北海道を象徴するツル類。アオサギよりずっと大きい大型のツル。体は白く頭頂は赤い。「丹」は古語で赤を意味し、頭頂に赤い皮膚が裸出するのが和名の由来。目先から首の下部にかけて黒い。尾羽も黒いように見えますが、黒いのは三列風切と次列風切。幼鳥は頭や首、背が茶色で風切は黒褐色。

※風切とは鳥類の骨格に直接付着している堅い羽のこと。

生息場所 十勝、釧路、根室地方の湿原や河川の下流沿い、海岸に近い湖沼周辺に生息する。秋や冬には農耕地にも飛来する。近年は、石狩、胆振などへの飛来も増えていて、数年前からは平取町内の農耕地でもよく見かけます。

指定 特別天然記念物、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）、絶滅危惧Ⅱ類（北海道）、北海道の鳥。

アイヌ文化との関わり

大形の鳥ですが、昔は捕ることも食べることもしなかったようです。本別（中川郡本別町）では位の高い神とされていました。名地の古式舞踊のなかにもツルをモチーフにした踊りが伝えられていて、帯広カムイトウウボボ保存会では、サロレンリムセというツルの舞踊が伝承されています。

〈伝承〉ツルとクマは仲が悪いといい、昔は帯広に「クマとツルの争い」の曲をムックリで奏するフチ（おばあさん）がいたそうです。（更料・帯広） 「アイヌと自然デジタル図鑑」より

平取地方ではハララキ（湿原の鶴の舞）という舞踊が伝えられています。湿原で遊ぶツルを表した踊りで、求愛の様子ではないかとも言われています。同じ題名で、大空を舞う鶴の様子を表した踊りもあります。（坂本エミ）

アイヌ語を覚えてみよう ②⑩

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、地名の中にあるアイヌ語の対語（反対語）いくつか紹介します。

※ポロ 大きい

※ポン 小さい



ポロは、ポロシリ（ポロ・大きい / シリ・山）、ポロト コタン（ポロ・大きい / ト・池、湖 / コタン・村）などのポロです。ポンは、本別（ポン・小さい / ペツ・川）、ポンオサツナイ（ポン・小さい / オ・川尻 / サツ・乾く / ナイ・沢）などの地名にあります。

※アシリ 新しい

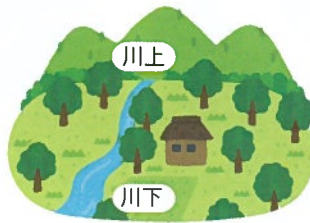
※フシコ 古い

アシリは、アシリベツ（アシリ・新しい / ペツ・川）、アシリコタン（アシリ・新しい / コタン・村）などがあり、フシコも、伏古別（フシコ・古い / ペツ・川）、フシココタン（フシコ・古い / コタン・村）などがあります。

※シ 本当の、主な

※モ 静かな

シは、士別、標津（シ・本当の、主な / ペツ・川）、モは、門別、紋別（モ・静かな / ペツ・川）などにあります。我々の地域では、沙流川をシペツとし、日高門別川をそれと対をなす、モペツと見なしたようです。



※ペンケ 川上の

※パンケ 川下の

ペンケは、ペンクトー（ペンケ・川上の / ト・池、湖）、ペンケピラウトウルナイ（ペンケ・川上の / ピラ・崖 / ウトウル・～の間 / ナイ・沢）などがあり、パンケも、パンクトー（パンケ・川下の / ト・池、湖）、パンケピラウトウルナイ（パンケ・川下の / ピラ・崖 / ウトウル・～の間 / ナイ・沢）などがあります。この、ペンケピラウトウルナイ、パンケピラウトウルナイは平取本町地区対岸（沙流川左岸）にある2つの沢名でこれが平取の語源です。

対の片方の言葉を使った地名が残っていれば、必ずもう片方の地名もある（あった）はずだ、と言われます。アイヌ語を知ること、地名からはいろいろなことが読み取れてきます。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラシ ロー！

（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

博物館実習・研修等の受け入れ

令和5（2023）年7～9月の3ヵ月間に沙流川歴史館・二風谷アイヌ文化博物館では2校の高等学校の生徒4名と、3校の大学の学生8名、2校の大学院の学生2名の合計14名を受け入れました。受け入れの内容は博物館業務等の研修、博物館学芸員課程の履修に伴う博物館実習、地域と大学の社会連携活動、インターンシップ（職場体験）です。（廣岡絵美）

受け入れ期間	学 校 名	人 数	内 容
7月1～31日	ウェインミシガン 州立大学大学院	1名	研修：歴史館・博物館における諸業務 （翻訳・通訳、施設管理補助等）
8月2～3日	北海道平取高等学校	3名	職場体験：【歴史館】土器の拓本作業、 【博物館】受付業務、発送作業
8月16～22日	北海道大学 北海道大学大学院 二松學舎大学	1名 1名 1名	博物館実習：【歴史館】北海道指定品資 料調査など【博物館】平取町指定文化 財パネル作成、チブサンケ参加等
9月10日	日本女子大学	6名	社会連携活動：来館者へのアンケート 調査、地域住民による来館者対応調査
9月22日	北海道富川高等学校	1名	インターンシップ：【歴史館】写真設置、 パネル制作補助【博物館】発送作業等



職場体験（北海道平取高等学校） 土器拓本作業の様子
歴史館事務室にて（8/2撮影）



博物館実習（北海道大学・北海道大学大学院、二松學舎大学）
ふとんづくりの様子 博物館視聴覚室にて（8/22撮影）



社会連携活動（日本女子大学） 活動終了後の記念撮影
博物館正面玄関前にて（9/10撮影）



インターンシップ（北海道富川高等学校） 写真パネル設置作業
の様子 歴史館スロープにて（9/22撮影）

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

番外編：火起こし体験とパン焼き機・せんべい焼き器・たい焼き器の利用

8月2日水曜日、町内の小学生（4年生・5年生）が集まる「わくわく自然体験スクール」にお邪魔し、参加した子どもたちと火起こし体験、せんべい焼き器、たい焼き器等を使った体験を行いました。場所は、ニセウ・エコランドオートキャンプ場です。



ひも切り式で、火起こしに挑戦する子どもたち。
班で協力しながら頑張っていました。

まずは、火起こし体験からです。火起こしのやり方はいくつもあるのですが、今回はひも切り式

という方法（左右に紐を引っ張ることで、火きり棒が回転し、摩擦熱により火種ができる）に挑戦しました。最初は慣れない道具に悪戦苦闘しつつも、しだいに焦げた匂いがし、煙も出はじめましたが、火種までいかず。火種が出来ても、ぼっと火を起こすところまでなかなかいきませんでした。みんな腕が痛くなるくらい頑張っており、これほど『火』に集中したことはなかったのではないのでしょうか。色々な意味で「熱い」体験ができたと思います。

続いて行なったのは、せんべい焼き器、たい焼き器、パン焼き器を使った体験です。材料を混ぜるところからスタートし、せんべい焼き器などに油をひくような下準備作業も行いました。炭火による火加減が難しく、何度もたい焼き機を開いて中を確認しているうちに、形が崩れてしまったり・・・それでも、野外で仲間たちと一緒に焼いたパン、せんべいやたい焼きは、おいしかったと思います。

短い時間でしたが、普段便利なものに囲まれている中で、昔の道具を使うことは、日々の生活の移り変わりを知ってもらう良い機会になったのではないかと思います。これを機に、昔の生活や地域の歴史・文化に少しでも興味をもってもらえたらうれしいです。（山本 雄）



平取町開拓財産展示施設（平取町字荷負77-3） 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日（祝日休館） 8:45～12:45

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展

『二風谷に生きたマンロー先生』

期 間：10月3日(火)～12月3日(日)

場 所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

休館日：11/20(月)、11/27(月)

■特別展講座

10月15日(日) 13:30～16:45

場 所：沙流川歴史館レクチャーホール

『マンロー館の建築と北大への寄贈並びに
マンロー先生顕彰碑建立について』

講 師：出村文理氏

(北海道史研究協議会会員・

北海道考古学会会員)

『ニール・ゴードン・マンローの

二風谷での生活

―手紙資料からわかることを中心に―』

講 師：内田順子氏

(国立歴史民俗博物館 教授)

■休館日のお知らせ

冬期間 (12月15日～1月15日)の1ヶ月間
は、館内整備のため休館します。

■イヨマンテ映像上映会

11月25日(土) 13:30～15:00

場 所：沙流川歴史館レクチャーホール

*N. G. マンローが1930年に二風谷で撮影
した映像(国立歴史民俗博物館蔵)の上映

沙流川歴史館

■特別展

『二風谷の銘石とアオトラ石

～生業を支えた石たち～』

期 間：10月3日(火)～12月3日(日)

場 所：沙流川歴史館 企画展示室

休館日：毎週月曜日

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

二風谷コタン内の一角にある『Cafeアリキキ』
では美味しいコーヒーや軽食、ソフトクリーム
などが食べられます。
今年の営業は10月末ま
でです。カフェだけ
のご利用も可能です。
ぜひお越しください。

(佐々木知代)



2023年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2023年11月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

2023年12月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2024年1月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

■ 博物館・歴史館 特別展 ● 歴史館 休館日 ● 博物館休館日 ● 博物館・歴史館休館日



シシムカ文化財だより No. 20

2023年10月27日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中!



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中!

